

## 第 11 回日本静脈経腸栄養学会九州支部会を終えて

2019 年 11 月 30 日土曜日に例年通り JR 九州ホールにて第 11 回日本静脈経腸栄養学会九州支部学術集会を開催させていただきました。

今回は、地域医療連携が必要とされる近年の医療情勢を見据えて、地域医療連携の中での栄養療法や NST 活動を考えるうえで必要と思われる内容を特別講演ならびに教育講演でご講演いただきました。特別講演では、鹿児島大学病院総合研修センターの加治建先生から、メディカルスタッフがあまり知らない卒然卒後の医学教育と地域医療とのかかわりについてご講演いただきました。教育セミナー 1 では、熊本第一病院の野上哲史先生から熊本大地震のときの経験を踏まえて医療連携の重要さと問題点についてお話いただきました。教育セミナー 2 では、佐賀県医療センター好生館の佐藤清治先生から医療 ICT を用いた地域連携の現在と今後の展望を述べていただき、教育セミナー 3 ではちゅうぎん病院の吉田貞夫先生から病院や施設以外での地域における栄養ケアの一つの形として WAVES という取り組みを紹介いただきました。我々が地域医療を行う上で、医療連携は切っても切れないものであり、また、NST 活動はその先陣を切って連携できるものの一つになる可能性があります。本学術集会に参加された方々にとって、少しでも有意義なものであり、今後の実践に役立てていただければと思います。

また、本学術集会には一般演題を 6 題いただき、いずれも興味深い内容で活発な質疑応答を行っていただきました。さらに、ランチョンセミナーでは産業医科大学病院小児外科の山内健先生から栄養評価法についてご講演いただき、そのなかでも体組成分析に焦点を当てて詳しく解説していただきました。多くの参加者にとって大いなる学びの場になったことと思います。この場をお借りして、ご講演いただいた先生方ならびにご発表いただいた先生方、座長の労をいただいた先生方、積極的に本学術集会に参加いただいた学会員の皆様に御礼申し上げます。

さて、今年から JSPEN の学会名称が変わるため日本静脈経腸栄養学会という名称を九州支部学術集会で使用するのは今回で最後になります。日本静脈経腸栄養研究会のころからお世話になってきた私としては大変感慨深いものがありますが、今後も、多くの学会員にとって、ひいては患者さん方にとって役に立つ学術集会であることを祈念しております。

第 11 回日本静脈経腸栄養学会九州支部学術集会  
当番世話人 公立八女総合病院 石橋生哉